



JFA バーモントカップ 第35回全日本U-12フットサル選手権大会 沖縄県大会

【大会要項(案)】

- 1 趣旨 気軽に楽しめるコミュニティスポーツ、フットサルの普及・発展に努めながら青少年の体力の向上と健全育成を高め
チームの交流・親子のふれあいを図ることを目的とする。
- 2 名称 JFA バーモントカップ 第35回全日本U-12フットサル選手権大会 沖縄県大会
- 3 主催 (一社) 沖縄県サッカー協会
- 4 主管 (一社) 沖縄県サッカー協会 4 種委員会 フットサル委員会
- 5 後援 沖縄県(案) (公財) 沖縄県スポーツ協会(案) 名護市教育委員会(案)
- 6 特別協賛 ハウス食品グループ本社(株)
- 7 協賛 -
- 8 協力 -
- 9 大会期日 各地区大会 2025年 6月1日(日) 迄に各地区代表チーム選出できるよう、各地区にて開催
沖縄県大会
 【参加申込期限】 各地区大会開始日の7日前 17:00 (KICKOFF選手・役員登録完了期限)
 【1次ラウンド】 2025年 6月7日(土)
 【決勝ラウンド】 2025年 6月8日(日)
 【予備日】 2025年 6月21日(土)
 【代表者会議】 2025年 6月4日(水) 20:00 場所: Zoom
 【開会式】 行わない
 【閉会式】 2025年 6月8日(日) 16:00 名護市21世紀の森体育館
 (優勝～第4位チームが参加)
- 10 大会会場 名護市21世紀の森体育館(大会初日・2日目)
- 11 参加資格 ① 大会実施年度に(公財) 日本サッカー協会(以下JFAとする。)[「第4種」]の種別で加盟登録を行ったチーム、
または、JFA「フットサル4 種」の種別で加盟登録を行ったチーム(以下、加盟チームとする)の選手であること。
② ①のチームに所属する2012年4月2日以降に生まれた選手であること。
③ 選手は2025年度スポーツ安全保険に加入していること。
④ 同一加盟チームで複数チームの参加を認める。ただし選手登録以降の選手の組替えは認めない。
⑤ ①に定めるチームには、1チームあたり5名までの外国籍選手の登録を認める。
- 12 参加チーム 参加チームは、以下により選出された32チームで行う。
① 各地区代表28チーム(島尻5 那覇5 浦添3 宜野湾市2 沖縄市4 北中頭3 北部3 宮古1 八重山1)
※プレーオフ(島尻・那覇で1枠追加)
② 沖縄ファミリーマートCUP OFA第18回沖縄県ジュニア(U-11)フットサル大会ベスト4の4チーム
- 13 大会形式 1次ラウンドは各3試合のリーグ戦方式、決勝ラウンドはトーナメント戦方式にて行う。
① 1次ラウンド: 出場32チームを4チームごとの8グループに分け、リーグ戦を行う。なお、同地区同士は、同グループでは対戦しない。
② 1次ラウンドにおける順位の決定方法は、勝利3点、引分1点、敗戦0点の勝点により、
勝点の多い順に決定する。なお、勝点の合計が同一の場合は、以下の項目に従い順位を決定する。
 (1) 当該チーム内の対戦成績
 (2) 当該チーム内の得失点差
 (3) 当該チーム内の総得点
 (4) グループ内の得失点差
 (5) グループ内の総得点数
 (6) 下記に基づくポイント合計がより少ないチーム
 (ア) 警告1回1ポイント
 (イ) 警告2回による退場3ポイント
 (ウ) 退場1回3ポイント
 (エ) 警告1回に続く退場1回4ポイント
 (7) (1) から (6) の全項目において同一の場合は、抽選により決定する。

- ③ 決勝ラウンド：1次ラウンド各グループ1位チームの計8チームによるノックアウト方式にて優勝以下第4位までを決定する。
(第3位決定戦を行う。)

14 組合せ

- ① 組合わせは4種委員会により決定され、代表者会議にて公開される。
② 12.参加チーム②に該当するチーム、および、各地区大会上位チームのうち数チームを『シード』とし、組合せにおいて考慮する。

15 競技規則

大会実施前年度のJFA「フットサル競技規則」による。
但し、細則については、4種用として競技会規定を定める。決定は4種委員会の内容による。

16 競技会規定

以下の項目については、本大会の規定を定める。

① 競技のピッチ

ピッチサイズ：原則として32m×16mとする。
センターサークルの半径：2.5m
ペナルティーエリア四分円の半径：5m
ペナルティマーク：5m
第2ペナルティマーク：8m
交代ゾーンの長さ：4m
タイムキーパーの机の前のエリア：ハーフウェーラインの両端からそれぞれ4m

② 守備側競技者のボール等から離れる距離

フリーキック：4m コーナーキック：4m キックイン：4m

③ ボール

(株) モルテン社製の (ヴァンタツジオ3000フットサル (F8N3000) 3号球) とする。空気圧は0.6気圧とする。

④ 競技者の数

競技者の数：5名 (3名に満たない場合は試合を行わず、得点を0対5として敗戦したものとみなす。
試合中、怪我等により、3名に満たなくなった場合は、その時点で試合を終了し、同様の敗戦とみなす。)
交代要員の数：7名以内
交代を行うことができる数：制限なし (交代して退いた競技者は交代要員となり、再び出場することができる。)
⑤ ベンチ入りするチーム役員の数：2名以上3名以下 (これに反した場合には、チーム役員に対し、大会規律委員会により懲罰を科す。) なお、1名以上がJFA公認指導者サッカーライセンス (D級コーチライセンス以上) を有することが望ましい。
試合中、選手への戦術的指示は、JFA公認指導者サッカーライセンス所持者のみが行える。
ベンチには、選手・役員以外はいれない。

⑥ 審判員

- (1) 審判は帯同審判制を採用し、各チームは、審判員 (主審、第2審判) 1名、副審 (第3審判、タイムキーパー) 1名を割り当てられた試合に配置すること。審判員、副審は、フットサル審判資格を有すること。
- (2) 審判は審判着を着用する。
- (3) 帯同審判は、3級審判以上が望ましい。ただし、4級審判で一定のフットサル 審判経験があれば認める。
- (4) 審判証を本部へ提示すること。(写真の表示が無いものは無効とする。)
- (5) 審判は担当する試合20分前から5分間の審判ミーティングを義務づける。
- (6) 主審を行った者は、審判報告書の提出を行うこと。
- (7) 宮古・八重山地区においては、審判の帯同を免除する。(大会本部にて割当を行う。)

⑦ テクニカルエリア

設置する。

⑧ 競技者の用具・ユニフォーム

- (1) 本大会に登録した正・副2組のユニフォーム (シャツ、ショーツ及びソックス) を試合会場に持参し、いずれかを着用しなければならない。
- (2) 正・副の2色については明確に異なる色とする。(通常、審判が着用する黒色、紺色などは認められない)
- (3) ユニフォームのデザイン、ロゴ等が異なっても、本大会主催者が認める場合、主たる色が同系色であれば着用することができる。

- (4) 選手番号は選手固有の登録番号をシャツの前面及び背面に付し、判別の明確な色彩及びサイズであること。また、台地に貼付けた番号についてはシャツにしっかりと縫りつけ、はがれないようにすること。
- (5) 広告の入ったユニフォームの着用は認めない。しかし、所定の手続きを完了した物についてはその限りでない。又、各国代表レプリカユニホームを着用する場合も代表エンブレム（マーク）が入ってる場合も同じである。
- (6) ゴールキーパーのユニフォームについて、ショーツ、ソックスはフィールドプレーヤーと同色系でも良いものとする。（ただし、本項（1）によりゴールキーパーユニフォームとして登録されていること。）
- (7) 主審は、対戦するチームのユニフォームの色彩が類似しており判別しがたいと判断したときは、両チームの立ち会いのもとに、その試合において着用するユニフォームを決定する。それ以外の場合において、フィールドプレーヤーのシャツ、ショーツ、ソックスの正副混在は認められない。
- (8) 前項の場合、主審は、両チームの各2組のユニフォームのうちから、シャツ、ショーツ及びソックスのそれぞれについて、判別しやすい組み合わせを決定することができる。
- (9) ソックスにテープまたはその他の材質のものを貼り付ける、または外部に着用する場合、ソックスと同色でなくても良い。（ソックスがセパレート履きの場合はショートソックスはカーフソックスと同系色とする。）
- (10) アンダーシャツの色は問わない。ただし原則としてチーム内で同色のものを着用する。（通常、審判が着用する黒色、紺色は認められない）
- (11) アンダーショーツおよびタイツの色は問わない。ただし原則としてチーム内で同色のものを着用する。
- (12) 試合後にペナルティマークからのキックにより勝者を決定する場合のユニフォームは以下の通りとする。
《試合中のフィールドプレーヤーがゴールキーパーを行う場合》
ゴールキーパーとなる選手は、選手固有の番号を付けた、サブユニフォーム（試合で使用していないユニフォーム）の上着のみ着用して出場することができる。選手固有の番号を付けたゴールキーパーユニフォームを着用する場合においても、上着のみ着用して出場することができる。
《試合中のゴールキーパーがフィールドプレーヤーを行う場合》
ゴールキーパーユニフォームのまま出場することができる。（フィールドプレーヤーユニフォームを着用する必要はない）
- (13) パワープレー（フィールドプレーヤーとして試合に登録された選手がゴールキーパーをすること。）および、ペナルティキックからのキックにより勝者を決定する場合、事前登録していればサードユニフォーム(上着のみ)を着用することができる。
- (14) 第1・第2ピリオド試合開始時、シャツはショーツに中に入れることを指導すること。
- (15) ベンチ入りしている交代要員は、ピッチでプレーしている両チームの選手と色彩の異なるビブスを着用すること。
- (16) ユニフォームへの広告表示については、JFAの規定に基づくものでなければならず、選手・役員登録時までにJFAの承認を受けている場合のみ認められる。（承認結果は、承認後、4種委員会へ提示すること。）

⑨ 試合時間

- (1) 試合時間は、次の通りとする。
1次ラウンド～準々決勝： 20分（第1・第2ピリオド各10分のランニングタイム）
準決勝、3位決定戦： 16分（第1・第2ピリオド各8分のプレーイングタイム）
決勝： 20分（第1・第2ピリオド各10分のプレーイングタイム）
ハーフタイムのインターバル（第1ピリオド終了から第2ピリオド開始まで）は原則5分間とする。
- (2) 規定の試合時間内に勝敗が決しない場合
1次ラウンド： 引き分けとする。
決勝ラウンド： 準々決勝～準決勝、3位決定戦： ペナルティキック方式(5人制)により次戦進出チームを決定する。
決勝： 6分間（第1・第2ピリオド各3分のプレーイングタイム）の延長戦を行い、なお決しない場合は、ペナルティキック方式（5人制）により優勝チームを決定する。
延長戦に入る前のインターバルは原則5分間とする。
延長戦のハーフタイムのインターバルは原則1分間とし、水分補給と、それぞれが位置するハーフの交代のために設けられる。
ペナルティキック方式に入る前のインターバルは原則1分間とする。
- (3) ベンチからのタイムアウトの要求（第1・第2ピリオド各1回）については、準々決勝以降の試合で行えるものとする。

⑩ 交代の手続き

- (1) 交代して退く競技者は、自分のチームの交代ゾーンからピッチの外に出る。
- (2) 交代は交代要員が交代して退く競技者にピブスを手渡しした後に、完全に自分のチームの交代ゾーンから、ピッチに入ることにより完了する。(負傷時の交代は、交代要員が第3審判にピブスを手渡すことで代替できる。)
- (3) 交代は、ボールがインプレー中、アウトオブプレー中にかかわらず行うことができる。
- (4) 交代は、審判員に承認を得る必要はない。(ゴールキーパの交代も同様。)
- (5) 交代して、退いた競技者は、その試合に再び参加することができる。

⑪ 負傷者の対応

主審が認めた場合のみ、役員のうち、最大2名がピッチへの入場を許可される。

⑫ マッチコーディネーションミーティング

準決勝、3位決定戦では30分前、決勝では60分前に、マッチコミッショナー、両チームの代表者、審判員によるマッチコーディネーションミーティングを行う。

⑬ グリーンカード

グリーンカードを推奨する。

⑭ セレモニー

試合前のセレモニーは、決勝のみ実施する。

⑮ キックオフからのゴール

キックオフから直接相手チームのゴールに入った場合は、相手にゴールクリアランスが与えられる。

17 懲罰規定

- ① 本大会はJFA「懲罰規定」に則り、大会規律・フェアプレー委員会を設ける。
- ② 大会規律・フェアプレー委員会の委員長は、4種委員会委員長とし、委員は、4種委員会副委員長・審判部長、本大会運営責任者、会場運営主任とする。
- ③ 次の選手・役員は、次試合（1試合）を出場停止とする。
 - ・同一試合で警告を2度受けた選手及び退場処分を受けた選手・役員。
 - ・本大会累積警告が2枚の選手・役員。
- ④ レッドカードでの退場選手・役員に関して、次の1試合を自動的に出場停止とし、それ以降の処置については、大会規律・フェアプレー委員会にて裁定する。
- ⑤ レッドカードでの退場選手は、退場の対象となった試合については、コート本部で待機する。
- ⑥ JFA諸規定および本記載事項にない事例に関しては、大会規律・フェアプレー委員会にて裁定する。
- ⑦ 決勝戦終了後、未消化の出場停止処分は全国大会に持ち越される。但し、累積警告によるものを除く。

18 大会参加申込

- ① 各地区4種委員は、地区大会開始概ね1ヶ月前までに、「参加チーム」を取りまとめ、4種委員会事務局へ報告すること。これにより、4種委員会事務局より、「参加チーム」へ選手登録依頼が行われる。「参加チーム」は依頼を受けたのち、JFA WEB登録システム「KICKOFF」にて必要事項を入力の上、参加申込手続き（選手・役員登録）を行うこととする。本手続は地区大会時に行い、県大会時の変更は不可とする。なお、複数チームが参加する「参加チーム」においては、監督は兼務できないため、必ず他の役員のうち1名を監督とすること。
- ② 登録選手は最大12名、登録役員は最大10名とする。（登録役員はベンチ入りする可能性がある役員のみとし、運営員、審判員は登録の必要はない。）
- ③ 登録選手は参加申込期限までに、加盟チームへの新規登録・移籍登録が完了している選手であること。
- ④ 参加申込期限は、『大会期日』に記載の通りとする。
- ⑤ 参加申込後の選手・役員の変更、選手背番号の変更は原則認めない。
- ⑥ 各地区4種委員は、地区大会終了後、県大会参加チームの「チーム名」「地区大会順位」を4種委員会事務局へ速やかに報告すること。(各地区の県大会参加チーム数は事前に事務局より各地区へ通達済みとする。)
- ⑦ エントリー表は、「KICKOFF」での申込みにより、4種委員会にて作成・配布される。参加チームは、配布されたエントリー表に必要事項を記載し、大会当日、受付において提出すること。
- ⑧ 参加選手は健康であり、且つ、保護者の同意を得ていること。

- 19 参加料** 沖縄県大会 13,000円
- 各地区における参加チームが確定後、速やかに、協会指定振込用紙にて、地区で一括して振り込むこと。
- 20 表彰**
- ① 優勝、準優勝および3位、4位チームを表彰する。
 - ② 優勝チームは、全国大会（2025年8月15日(金)~17日(日)/東京都）へ沖縄県代表として推薦する。
 - ③ 準優勝、3位チームは九州ジュニアフットサル大会（日程未定/長崎県(未定)）へ沖縄県代表として推薦する。
- 7月31日までに参加意思を明確にすること。辞退の場合、4位チームを優先とし、ベスト8チームから選考するものとする。
- 21 ベンチ**
- ① ベンチ入りする役員は、試合に参加するすべての関係者（審判、選手、運営スタッフなど）にリスペクトを持つことを義務付ける。指導者の言動により、関係者、観客が不快な感情を持つことのないよう、良識のある言動を義務づける。
 - ② 自チームの選手であっても、1人の人格を持った人間であることを強く意識し、指導を行うこと。
- 上記が順守されていないと、審判、運営スタッフが判断した行為については、試合中に限らず、該当役員へ警告を行う。
- また、その内容によっては、ベンチからの退席指示、フェアプレー委員会による懲罰検討の対象とする。
- ③ ベンチ入り役員が審判の判定に対して異議を唱えたり、選手に対して罵声を浴びせる等のネガティブなコーチングを行い、主審から一度注意を受けた後に再度同様な行為があった場合は、主審の判断により退場処分とし、それ以降はベンチからのコーチングを不可とする。
 - ④ ウェルフェアオフィサー：サッカーを楽しむ大前提である安心・安全を守る担当者（＝ウェルフェアオフィサー）を配置する。
- サッカーにおける暴力根絶を目指し、ベンチ入り役員と試合の講評の伝達、意見交換等を行う。
- 22 その他**
- ① 荒天時（強風、大雨、雷雨等）により試合続行が不可能と判断された際は、試合を停止し、天候が回復次第、残り時間を再開する。詳細は、項目⑨、⑩に規定する。
- （試合開始前は大会本部にて、開始後は主審の判断にて決定する。）
- ② ケガについては各チームにて応急処置を行う。
 - ③ 大会中におけるケガや賠償金が発生する損害については、当事者で解決すること。
 - ④ 使用する施設・設備を大切に、マナーを厳守すること。
 - ⑤ 貴重品の管理・ゴミの持ち帰りは、各チームの責任で行うこと。
 - ⑥ 飲水タイムについては、大会当日の天候により主審の判断にて行う。
 - ⑦ 試合会場では他競技も実施されるため、駐車場が非常に混み合うが、一般道での路上駐車、一時駐車は厳禁とする。
- また、マイクロバス等の大型車両で来場するチームは各々で駐車場を確保すること。
- 選手・役員の車からの乗降、荷物の上げ下ろしなどは、駐車場内で行うよう徹底すること。
- ⑧ 大会参加チームは、大会期間中、4種委員会により撮影された動画・画像は4種委員会の広報活動において使用されることを許諾したものと見なす。
 - ⑨ 落雷に関して、試合開始・試合実施が困難な場合の取り決めは、下記の通りとする。
- (1) 試合開始前
 - (a) 試合開始時において、雷の発生（予報）により、試合成立が困難と判断した場合には、試合を開始せずに、60分間天候状況を確認する。
 - (b) 60分間天候状況を確認して、なお、状況が変わらない場合においては、大会本部（会場責任者）が中止を決定する。
 - (c) どうしても当日中に勝敗を決定しなければいけない場合には、大会本部にて抽選で勝敗を決定する。
 - (2) 試合中
 - (a) 審判が雷の発生により、試合続行が困難と判断した場合には、試合を停止する。
 - (b) 大会本部（会場責任者）が雷の発生により、試合続行が困難と判断した場合には、試合を停止するよう審判に勧告するものとする。
 - (c) 再開の目処として、雷が完全に鳴り止んでから30分間状況を確認する。30分間経過後も雷が鳴り止まない場合には大会本部（会場責任者）にて「更に中断を続行するか?」、「大会を中止するか?」について判断を行う。

- (d) 中断の時間は最長60分間を限度とする。60分経過後に試合再開が不可能な場合は試合中止とし、再試合を行う。ただし、試合の3/4が経過している場合（※1）、試合成立とし、再試合は行わない。再試合の実施は、次の基準に従う。

- (i) 中止試合の第1ピリオドが終了していない：

中止試合の状況(時間・得点)は引き継がず、第1ピリオド開始からの再試合とする。

- (ii) 中止試合の第1ピリオドは終了し、3/4が終了していない：

中止試合の状況(時間・得点)を引き継ぎ、中止時点からの再試合とする。

- (iii) 中止試合の3/4が終了しており試合は成立しているが、同点の場合：

次試合に進出するチームを決定する、または順位を決定する必要がある場合、大会本部において抽選で勝敗を決定する。

※1 10分ハーフの試合の場合、第2ピリオド5分を経過している場合、試合成立とする。

- (e) (d) の状況において、どうしても当日中に勝敗を決定しなければならず、再試合が不可の場合、中断した時点での状況および得点にて勝敗を決定する。

- (i) 中止試合の3/4が終了していない：

試合は不成立とし、大会本部において抽選で勝敗を決定する。

- (ii) 中止試合の3/4が終了している、かつ同点である：

試合は成立とし、大会本部において抽選で勝敗を決定する。

- ⑩ その他何らかの要因によって、試合開始及び試合続行が困難な場合の取り決めは、下記の通りとする。

- (1) ⑨の「落雷に関して」に準ずる。

- (2) 但し、「生命に危険性がない」と判断される場合においては、大会本部（会場責任者）の判断にて柔軟な対応を行う。対応に関して、参加チームからの異議は受け付けない。